[三股町]

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

急激に変化する時代の中で、学校教育には、一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。中央教育審議会の答申（令和3年1月）では、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」に向けて、これからの学校教育を支える基盤的なツールとしてICTの活用が必要不可欠であると述べられている。

このような社会的な要請を踏まえ、本町においては、1人1台端末を始めとするICT環境によって、これまでの実践とICTを最適に組み合わせ、以下の学びの姿の実現を目指す。

- 子供一人一人が、自分の興味・関心・キャリア形成の方向性等から課題意識をもち、粘り強く学習活動に取り組んでいる。
- 子供一人一人が、自分のよさや可能性を生かし、子供同士をはじめとする多様な他者と協働しようとする。
- 子供一人一人が、学びを振り返ったり学びの確認をしたりするなど、自分の学習進度・学習到達度等に応じて自己調整しながら学習を進めている。

2. GIGA第1期の総括

「GIGAスクール構想」の第1期として、児童生徒1人1台のパソコンの実現に向け、令和2年度に、町内小学校4年生から6年生にWindows端末500台、中学校にWindows端末840台を整備した。令和3年度には、町内小学校1年生から3年生にiPad端末1,050台を整備した。GIGA第1期で整備する前に小学校で導入したWindows端末421台と、令和2年度にGIGA第1期とは別にWindows端末50台を追加で購入した分を含めて合計2,861台を整備し、児童生徒1人1台のパソコンが実現した。

さらに、校内LAN整備については、平成30年度に教室へのLANケーブル配線敷設、L2スイッチをIG対応機器配置、職員室・体育館・PC室等に無線APを設置した。令和2年度に第1期のGIGAスクールに対応するために三股中、三股小、三股西小、勝岡小学校の教室内に無線APを設置し、長田小、梶山小については、令和3年度に光架線を敷設しネットワークの高速化を図った。さらに複数のキャリアと回線契約を行いネットワーク帯域の確保を図った。

また、タブレットの利活用を図るために、デジタルドリルの導入、学習支援ソフトの導入を行い個別最適な学習環境を提供できた。これらの整備を進めるとともに、教職員のICT活用指導力の向上に努めるため、夏季休業中と春季休業中にデジタルドリル及び学習支援ソフトの操作研修並びに年度更新などの操作研修を行った。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末の効果的な利活用推進に向けて、次の3つの視点から目標達成に向けてその具現化に迫る。

○1人1台端末を積極的に活用するために

教職員の研修機会の充実を図るとともに、外部機関が実施する研修会への積極的な参加を推進する。また、学校訪問においては、学校の利活用状況を把握するとともに、学校が必要とする情報の提供や支援を行う。

○個別最適・協働的な学びの充実を図るために

学習者の視点に立った「子供の学びの姿」から授業改善が図られるようにする。また、学校訪問においては、全ての授業者を対象とした授業ミーティングを行い、ICTの効果的な利活用の視点から指導助言を行う。

○全ての児童生徒の学びを保障するために

多様な学びに応じた1人1台端末の活用について、学習者の視点に立った実践を推進するとともに、学習機会や学びの幅を広げるような効果的な活用場面や活用方法について学校間の情報共有を図る。

4. 今後の計画について

今後、MEXCBTを用いたオンラインによる全国学力・学習状況調査が2027年度（令和9年度）の全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）より実施され、コンピュータを用いた出題・解答方式（CBT：Computer-based Testing）へと全面移行する案を有識者会議にて提示されたことを踏まえ、さらに安定したネットワーク環境構築や帯域の確保を行い、文部科学省が公表している「学校のネットワークの現状について」の中で示されている、学校規模ごとの帯域の目安（当面の推奨帯域）に近づくネットワークの構築を検討する。